

# CMS要件一覧

CMS要件一覧

機能詳細 No.	対象	大分類	小分類	要件の概要	要件機能詳細	代替案・備考
1	作成者向け	ページ作成支援機能	クライアント環境	WEBブラウザでシステムが正常に動作すること。	CMS利用のクライアント端末の条件は以下の通りとする。 ・OS: Windows OS (Windows10, Windows7) ・ブラウザ: Internet Explorer11, Microsoft Edge最新, Google Chrome最新  ※ASPの仕様により条件がある場合は、その旨明記する。	
2			操作環境	SSL対応	SSL通信でCMSの編集ができること。	
3			ライセンス	ユーザアカウントは最大10程度設定ができること。	ユーザアカウントは最大10程度設定が可能とすること。	
4			ログイン	ユーザアカウントで複数ユーザ同時にログインして操作ができること。	同一アカウントで複数ユーザ同時にログインして操作ができること。	
5			データ入力操作性	データ入力の操作性が高いこと。	コンテンツ作成時は、ウェブアクセシビリティ等の基準に合ったページを、HTML言語を意識することなく、一般的なWordやExcelのような操作性で作成できること。	
6			テンプレートの作成	テンプレートは、本協会と協議の上、3点程度用意すること。	コンテンツの一部においては編集自由度の高い入力部分も別途用意し、HTMLタグを利用して編集することが可能とすること。	
7			タイトル入力	タイトルを設定できること。	作成者が、HTMLソースを編集することなく、簡単な操作によって、title要素の内容を入力・変更できること。	
8			リンク設定	リンクを設定できること。	作成者が、HTMLソースを編集することなく、簡単な操作によって、リンクの設定ができること。	
9			文字色変更	編集エリア内に設定、変更できること。	作成者が、HTMLソースを編集することなく、簡単な操作によって、文字色の変更を行えること。	
10			表示位置変更	編集エリア内に設定、変更できること。	作成者が簡単な操作によって、文章や画像の配置(右寄せ、左寄せ、中央揃え、左右インデントなど)を行えること。	
11			データ入力の操作性	編集画面の構造が簡易であり、カスタマイズ可能であること。	編集画面において、よくある入力パターンをテンプレート化することで、最適化することができるように考慮すること。 例として、イベントカレンダーのように形式を決めて作成できるコンテンツは、一定の型にはめてそのテンプレートを活用して作成できることが望ましい	
12			コンテンツ作成補助機能の充実	コンテンツ作成において、基本となる機能は標準的に備えていること。	下記の文章に対する補助機能については、標準的に備えていること。 ・太字 ・文字色(システム側で設定した色のみを選択) ・リスト表記 (順序付き、順不同のリストが作成できること) ・文字リンク設定 ・ページ内リンク設定	
13				入力作業を効率化する機能が充実していること。	テンプレートに沿って入力を行うことにより、コンテンツが作成できること。 ページのレイアウトおよびデザイン情報は、コピーして再利用ができること。 作成途中のコンテンツを一時保存でき、再ログイン後に再開できること。 新規コンテンツ作成場所を簡単に指定できること。	
14				一度の作成で、PC用、スマホ用のコンテンツが作成できること。(レスポンス対応)		
15				コンテンツ作成途中に、簡単な操作でページの完成イメージ(プレビュー)を表示できること。また、作成画面に戻ること容易な操作であること。		
16				プレビュー画面は、外部関係者や外部端末でも、閲覧だけできる状態(編集不可)で表示確認ができること。		
17				日付を指定したプレビューが表示でき、その日付時点で公開されるリンク等を確認できること。		
18				プレビューは、実際と同じようにリンク先のページも表示すること。		
19				プレビュー画面は、PC・スマホ画面に最適化されたものが表示できること。		
20				コンテンツ作成者またはサイト管理者の判断により選択できること。		
21				下記の機能は標準的に備えていること。		
22				・画像ファイルを作成者のパソコンから容易に登録できること		
23				・アップロードした画像は管理画面上で「カテゴリー分け」や「タグ付け」等をして管理しやすくすること		
24				・画像データへのキャプションを設定できること		
25				・画像へのリンク設定が行えること		
26				・アップロード可能なファイル容量の上限は本協会と協議の上、決定すること		
27				ロゴマークなどの画像データは、予めCMSに格納するなどし、全作成者が共用できるような仕組みを取る		
28				WordのデータをCMSの入力データとして使用できること。	Wordの文書について、文面をコピー&ペーストすることにより、そのままCMSの入力データとして使用できること。(画像は除く)その際、余分なタグ情報は削除しレイアウトが崩れないように配慮すること。	
29				ExcelのデータをCMSの入力データとして使用できること。	Excelの文書について、文面をコピー&ペーストすることにより、そのままCMSの入力データとして使用できること。(画像は除く)その際、余分なタグ情報は削除しレイアウトが崩れないように配慮すること。	
30				リンク設定が容易かつ使いやすいくこと。	コンテンツを同時に複数作成する際、承認済みのコンテンツへのリンク先の設定を可能にすること。 リンク先に設定するサイト内のページは、サイトのツリーやコンテンツ名から検索ができる等、簡単に設定できること。 リンクにtarget=""、Blank=""を設定できるようにすること。なお、その場合新規ウィンドウが開くことを必ず明示すること。	
31			アクセシビリティ向上機能	W3C文法準拠	ページ作成の際に作成者がHTMLソースの編集を行ったり、制限を設けたりせずに、簡単な操作によって、W3C基準の文法使用に則ったHTML(W3Cが提供する文法チェッカーでエラーが出ない)で、ページが作成できること(構造化されていないワード文書の書き換え等によるページ作成を想定)。	
32				画像には代替テキストを設定できること。	画像には代替テキストを設定できること。	
33				METAタグの設定ができること。	作成者がMETAタグのキーワードを設定できること。	
34			HTMLファイル取り込み	地図のページ内貼り付けやFacebook・TwitterのHTMLタグの取り込みに対応すること	地図、SNSから出力したHTMLタグ等をページ内に貼り付けられるよう、HTMLタグの取り込みも可能とする。	
35			イベント情報の登録	イベント情報の掲出が容易に設定できること。	イベントの日程の設定が簡易にできること。 例として、単一日だけでなく、連続実施や隔週の〇曜日、月次開催のようなイベントの日付の入力にも考慮すること。	
36			正しい文法によるHTML情報の自動生成	CSSによる文書構造を持ったページを自動作成できること。	作成者が意識しなくても、HTMLで文書構造を指定し、tableタグを利用せずにCSSによって表示方法を指定するページを作成することができること。	
37				適正なHTML文法に従ったタグを自動的に設定できること。	見出しレベル(h1タグ)、段落(pタグ)が、自動的に設定されること。 見出しタグについては、順序が異なるようにすること(h2)より前に(h3)が記述されないこと。	
38				ナビゲーション(パンくずリスト)を自動的に生成し挿入すること。	ナビゲーション機能(サイトマップ・パンくずリスト)を自動生成すること。トップページについてはこの限りではない。	
39				不要なタグを作成しないこと。	コメントタグの使用は必要最小限度とし、不要なものは挿入しないこと。	
40				階層構造設定	Word、Excelからデータを取り込んだ時に、アプリケーション固有のタグを挿入しないこと。	
41				適切な階層構造と拡張性を持っていること。	サイトは適切な階層構造を保持することし、本協会の指示により、階層を増やすことができること。	
42			コンテンツ公開・終了処理	システム管理によるコンテンツの公開または終了が行えること。 ※公開とは、CMSサーバで作成・修正したコンテンツをWEBサーバにアップロードすることをいう。	指定した日時に自動でコンテンツの公開または終了が行えること。	
43			コンテンツ確認	登録したコンテンツの「公開期間」「公開先」「承認履歴」等を確認できること	コンテンツの一覧画面から必要な情報は確認できること。	
44			コンテンツデータ検索	登録済みのコンテンツ(一時保存を含む)をキーワード検索できること	登録済みのコンテンツを検索する手段として、コンテンツ内の文章をキーワード検索でヒットさせることができること。また、複数の条件を組み合わせて検索する手段を有すること。	
45				特定のディレクトリに対し、生成時間を通常の定時実行時間とは別に、日時単位で設定できること。ただし、HTMLの生成時間がごく短く、更新に影響がない場合はこの限りではない。		
46	管理者向け	管理者機能	コンテンツの更新	CMSサーバからWEBサーバへのコンテンツ配信(更新)が確実に実行すること。	配信(更新)時間および頻度は、本協会と協議の上決定する。	
47				日付を指定しない情報については、適宜更新できること。	公開の日時を指定しない場合は、承認の終わった段階または手動で更新できるようにすること。	
48			404表示	リンク切れエラーページの表示ができること。	リンク切れが発生した際にエラーページを表示すること。なお、サイトのデザインに合わせて、404エラーページを作成すること。	
49			データ管理機能	不要コンテンツ履歴の一括削除が行えること。	不要となったコンテンツや公開期間が過ぎたコンテンツの履歴(古い世代)を削除できること。	
50				ウェブサイト共通で使用する画像/スタイルシート/JSファイル等は、CMSの管理画面から追加・更新・削除ができること。	サイトで管理される共通ファイルは下記例のように分類分けして管理できること。  サイトファイル ├─ サイト共通 │   ├── 画像 │   ├── スタイルシート │   └─ トップページ用 │       ├── 画像 │       ├── スタイルシート │       └─ ○○○サブサイト用 │           ├── 画像 │           └─ スタイルシート └─ ○○○画像一式	
51			バナー広告の管理	バナー広告を任意のインデックスページに掲載できること。	トップページおよび任意の下層インデックスページにバナー広告が掲載できること。	
52				クリック数が計測できること。	バナー広告のクリック数を計測できること。	
53				バナー広告の掲載期間を予約設定することができること。	トップページに掲載するバナー広告は、管理画面からバナー広告の追加・削除等の設定(バナー画像のアップロードおよびリンク先URLの指定)が行えること。また、バナーの掲載開始日および終了日を指定できるようにすること。	
54			トップページ編集	サイト管理者によるトップページの軽微な編集を行えること。	システム稼働後、トップページのデザイン等を変更する場合、軽微な修正の時は、サイト管理者の操作による変更ができること。	
55			アクセス権の設定	管理単位の設定・変更 複数組織による管理コンテンツの共有	管理者が、部署ごとあるいは作成者ごとの、権限を付与する管理単位を設定できること。 同一カテゴリに対し、複数の組織/権限グループを設定できること。権限が付与されている組織以外のコンテンツは操作できないような運用を想定している。	
56						
57						